

武蔵野市のごみ排出の特徴

【ごみ排出実態調査から】

- 小規模事業所からのごみ排出量は 35g、全体の 5%程度を占めている。
- 人口が 1 割変わる動向からの引越しごみ、遺品整理によるごみ排出、住民登録のない住民のごみ量を合わせると 19gになり、全体の 3%程度を占めている。
- 家庭からの 1 人 1 日当たりの排出量 675gに対し、小規模事業所・引越し等のごみが 54g(35g+19g)、全体の 8%を占めているのは武蔵野市のごみの排出量の一定の要因となっている。
- 調査全世帯における家庭ごみの原単位は約 581g/人日となった。
- 1人世帯の 65 歳以上の高齢者世帯(約 9 千人)は約 683g/人日で、調査全世帯に比べ、約 100g 多い結果となった。特に、可燃ごみが大変多く、組成分析の結果から厨芥類の比重が高い。
- 1人世帯の 20~30 代世帯(約 1 万 8 千人)は 319 g/人日で、調査全世帯に比べ、約 260g 少ない結果となった。可燃ごみ、不燃ごみは大変少なく、資源ごみの比率が高い。
- 2人以上の世帯では、2~3 人世帯(約 6 万 4 千人)では 647~667g、4~5 人世帯(約 3 万 7 千人)では 402~407g となっており、世帯が多いほど一人当たりのごみ量は少なくなっている。
- 2~3 人世帯では、可燃ごみ、不燃ごみ、プラ容器・ペットボトル、古紙・びん・缶等の資源のすべてにおいて大きく上回っている。特に可燃ごみは 100g 以上上回っているが、組成分析の結果から厨芥類の比重が高い。
- 4~5 人世帯のごみ排出量は少なく、多摩地域の平均に近いと推測する。
- 不燃ごみ・資源ごみ(プラ容器・ペットボトル、古紙・びん・缶等の資源)は、調査全世帯並びに世帯別においても半部を占めており、不燃ごみ・資源ごみの量が武蔵野市のごみの排出量の多い要因の一つである。

【多摩地域ごみ実態調査から】

- 武蔵野市は可燃ごみが多く、不燃ごみが少ない。
⇒武蔵野市の可燃ごみには、他市の不燃ごみ扱い(廃プラ、靴など)があり、その分、不燃が少ない。
⇒可燃ごみに、小規模事業所からのごみ排出量 35gをカウントしている。(例)西東京市はカウントしていない。
- 粗大ごみが多い。⇒引越し、遺品整理ごみが多い。
- 資源ごみが多い。⇒特に、紙類が多い。文化度、購買力のバロメーターと考える。
(複数の新聞購読、通販カタログ、ダイレクトメールなどが多いと考えられる)

【武蔵野市のごみの特性】

- 市民の出すごみは、581g であるが、非日常的なごみ(小規模事業所のごみ、引越し、遺品整理等のごみ=54g)が他市より多いと推測する。
- 武蔵野市の平均世帯人員 1.95 人、所得は多摩地域トップ。単身、2~3 人世帯の高齢世帯が多く、所得が高く、購買力が高い。他市より、市民の出すごみは多いと推測する。

ごみ処理基本計画の目標設定

資料2

ごみの発生抑制

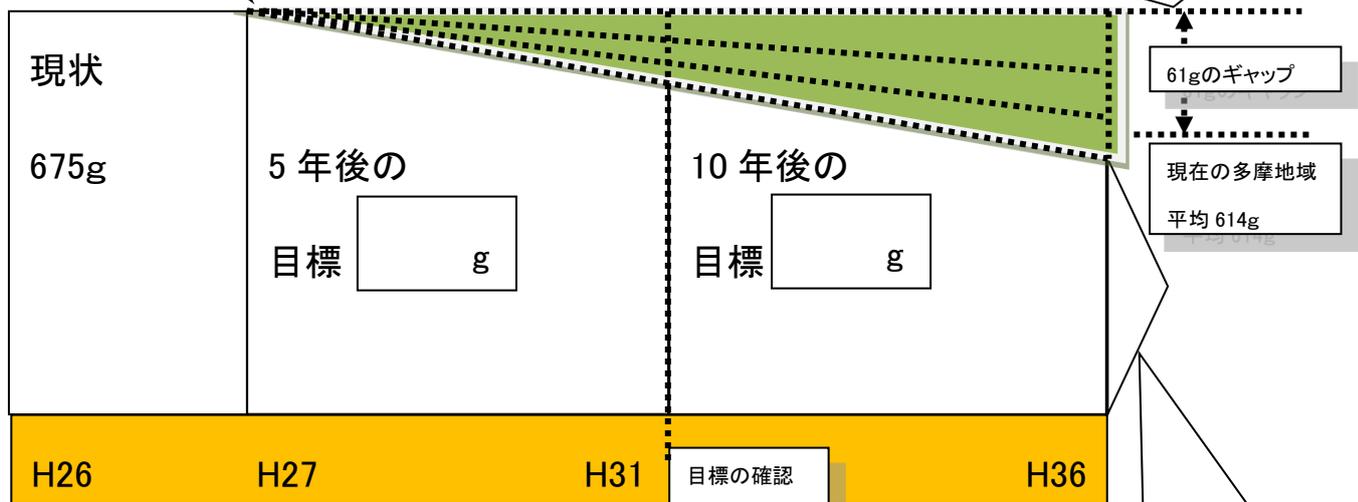
- ・武蔵野市のごみ排出の特徴を捉え、適正な目標を設定
- ・14万市民のできるごみ減量行動

資源化処理の拡充

- ・ごみ分別の徹底による資源化処理の拡充
- ・小型家電などの新たな資源化

- 武蔵野市のごみは、小規模事業所のごみ、引越し等のごみが多いため、他市より多い。
- 上記のごみ量を勘案しても武蔵野市の市民の出すごみは多い。特に高齢者のごみが多い。
- ・高齢化率が高い、年少人口率が低い
- ・平均世帯人数が少ない
- ・所得が高い、購買力がある
- ・人口密度が高い
- ・スーパー、店舗が多く、近くにあり、便利
- ・畑が少ない
- ・居住年数が短い

ごみ減量・資源化行動



- 多摩地域の市民一人1日あたりのごみ量は、有料化も進み、ごみ減量は鈍化している。多摩地域の平均は、現在614gであるが、10年後としても平均600g前後を推移すると考える。